

# 第一生命経済研レポートテーマ（2004年5月～6月）

<p>2004年5月号 (通巻86号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時評</li> <li>・今月の内外景気</li>   <li>・今月の金融マーケット</li> <li>・経済トレンド</li> <li>・けいざい・かわら版</li>   <li>・よくわかる経済指標</li> <li>・よくわかる年金</li> <li>・産業トレンド</li> <li>・セクター分析</li> </ul>	<p>長期トレンドは上向くか、正念場迎える日本経済 日本経済 ~ 日銀短観に見る格差縮小の阻害要因 ~ 米国経済 ~ 商品市況の急騰も消費者物価は安定推移 ~ 日米経済の現状と6ヶ月後の方向性 世界的な資金還流システムからみた日本の動き 少子高齢化の影響を考える ~ 諸外国の経験から ~ 3月景気ウォッチャー調査 ~ ウォッチャーの声にも明るさが広がっています ~ 「GDP」 公的年金の基本と2004年制度改正(その1) デジタルAV製品における競争優位の決定要因 産業別利益動向</p>
<p>2004年6月号 (通巻87号)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時評</li> <li>・今月の内外景気</li>   <li>・今月の金融マーケット</li> <li>・経済トレンド</li> <li>・けいざい・かわら版</li>   <li>・よくわかる経済指標</li> <li>・よくわかる年金</li> <li>・産業トレンド</li> <li>・セクター分析</li> </ul>	<p>「中国特需」の先にあるもの 日本経済 ~ 日米金利差拡大がもたらす株安、そして... ~ 米国経済 ~ FRBは緩やかなペースで利上げを実施 ~ 日米経済の現状と6ヶ月後の方向性 米国金利上昇から日本銀行が学ぶべきこと 最近の個人消費を下支える資産効果 ~ 雇用・所得環境の改善が鈍いなかでも個人消費が堅調なのはなぜか ~ 2004年夏のボーナスは0.6%減少 ~ 本格的な消費回復を演出することは期待しにくい ~ 「景気動向指数」 公的年金の基本と2004年制度改正(その2) 自動車メーカーの米国ライトトラック戦略 産業別利益動向</p>

## 編集後記

7月 梅雨明け、夏休み、海の日、土用の入り・・・前半は梅雨末期で豪雨が降りやすく、後半は「梅雨明け10日」と言われるように、ひと夏で最も安定した夏空が続く時期。古来、旧暦7月の呼び名は「文月(ふづき、ふみづき)」。稲の穂がふくらみ始める季節だったことから「含み月(ふくみづき=ふみづき)」、その稲穂のふくらみを見る「穂見月(ほみづき)」などに語源があったとする説が知られている。旧暦と現行暦とではおよそ1ヶ月強のズレがあり、旧暦7月は今の8月にあたるため、いずれも初秋を感じさせる表現となっている。

でも7月といえばやはり”笹の葉さらさら・・・”と歌われる「七夕」だろう。そもそも「七夕」は桃の節句(3/3)や端午の節句(5/5)と並ぶ五節句の一つで、江戸時代には正式な“祝日”であったそうだ。現在の七夕は幾つかの伝説が混ざり合ってきたもので、中国に伝わる織女星と牽牛星の星伝説 天界の機を織る織女と牛飼いの牽牛夫婦の仲が良すぎて、全く仕事をしなくなったので、怒った天帝が天の川で隔てて二人を別居させ、1年に1度7月7日だけ逢うことを許したという話

や、織女が女子の手芸の神様であることから、裁縫や書道、和歌などの上達を祈る行事、古来、日本にあった先祖の霊を祭る「棚機つ女(たなばたつめ)」の行事、等々が結果的に融合して現在の日本風の七夕祭りが出来たそうだ。とりわけロマンティックで悲しい星伝説では、二人が1年間待ち焦がれた7月7日に雨が降ると(現行暦ではまさに梅雨のど真ん中のため、ドンヨリ厚い雲に覆われていることがほとんど)、天の川の水かさが増し織姫が対岸に渡れないため、二人を見かねたカササギの群れが翼を広げ橋を架けて二人を会わせてくれるそうだ。大人になって星伝説を読むのも案外悪くない。織姫星はこと座の 星(ベガ)、彦星はわし座の 星(アルタイル)などと天文学のうんちくはさて置き、冬ソナの純愛モードにはまってしまったこの夏は七夕の夜空を見上げてみては? (N.I)